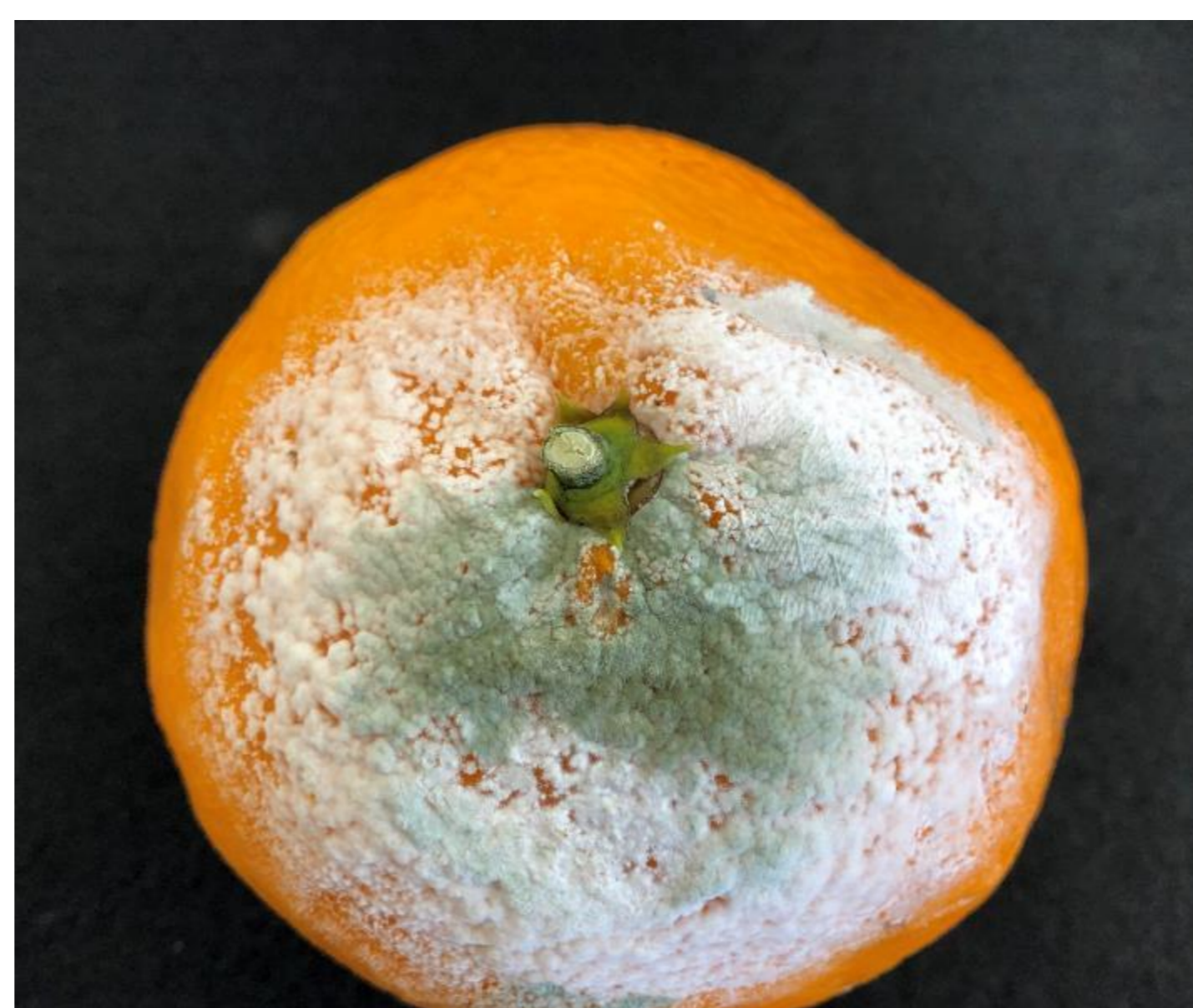


かんきつ貯蔵病害防除薬剤の検討（ベフラン代替剤の探索）

主要薬剤の「ベフラン液剤25」がR7年10月までに失効予定のため、緑かび病に対する各種薬剤の薬効・薬斑（汚れ）の評価を行い、代替剤を検討した。

■ 貯蔵病害とは

収穫後の果実が発生する病気。
最も被害が大きいのは**緑かび病**。病原菌は傷口から感染し、緑色の胞子を形成するのが特徴。



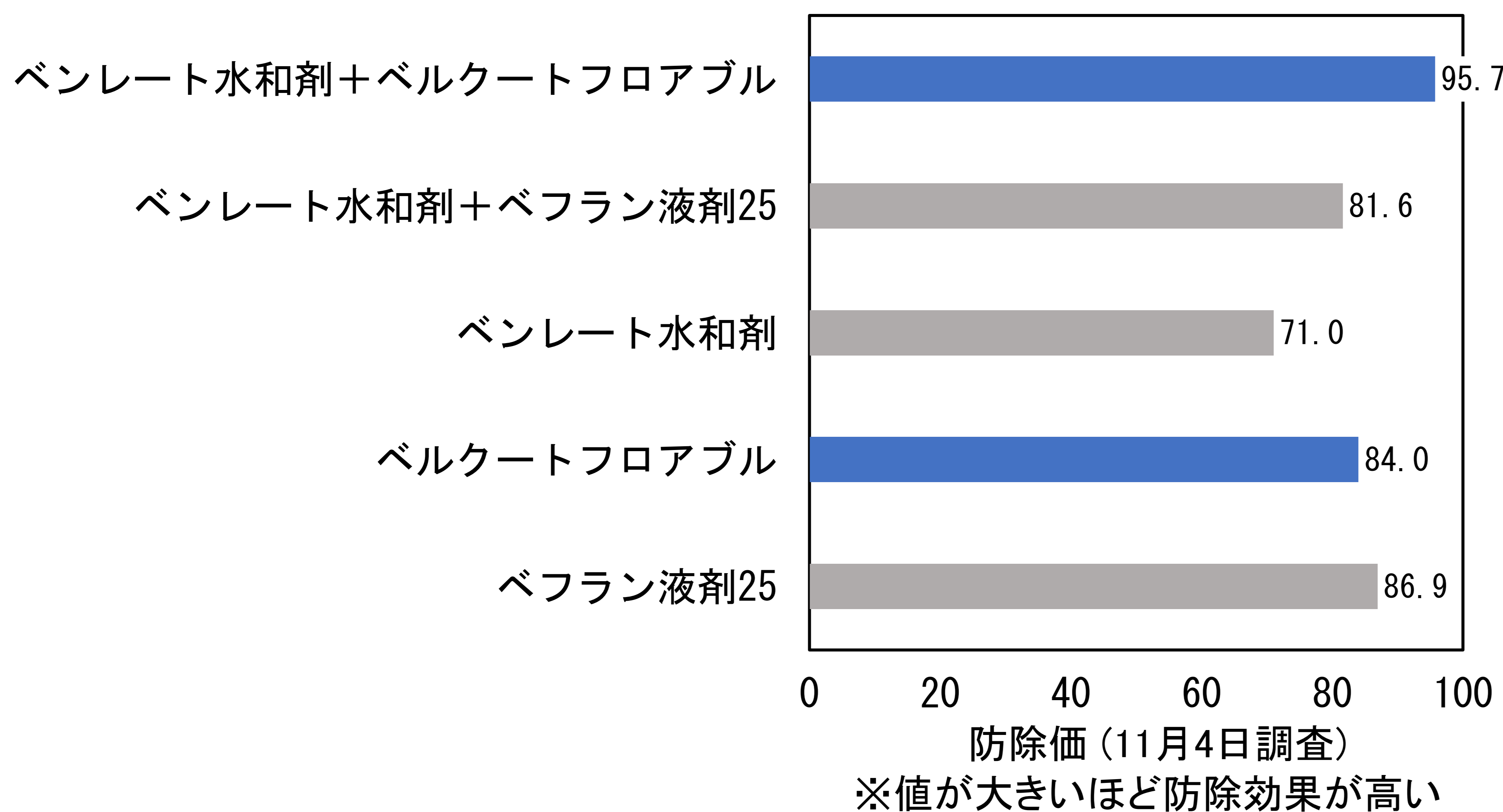
緑かび病

■ 薬効評価

供試品種 日南1号(32年生)
散布日 2022年10月6日(薬斑調査実施)
収穫日 2022年10月14日
→ 坂道を転がして付傷し、倉庫で貯蔵。
1週間ごとに発病を調査。

【供試薬剤と希釈倍率】
ベンレート水和剤: 4,000倍
ベルコートフロアブル: 1,000倍
ベフラン液剤25: 2,000倍

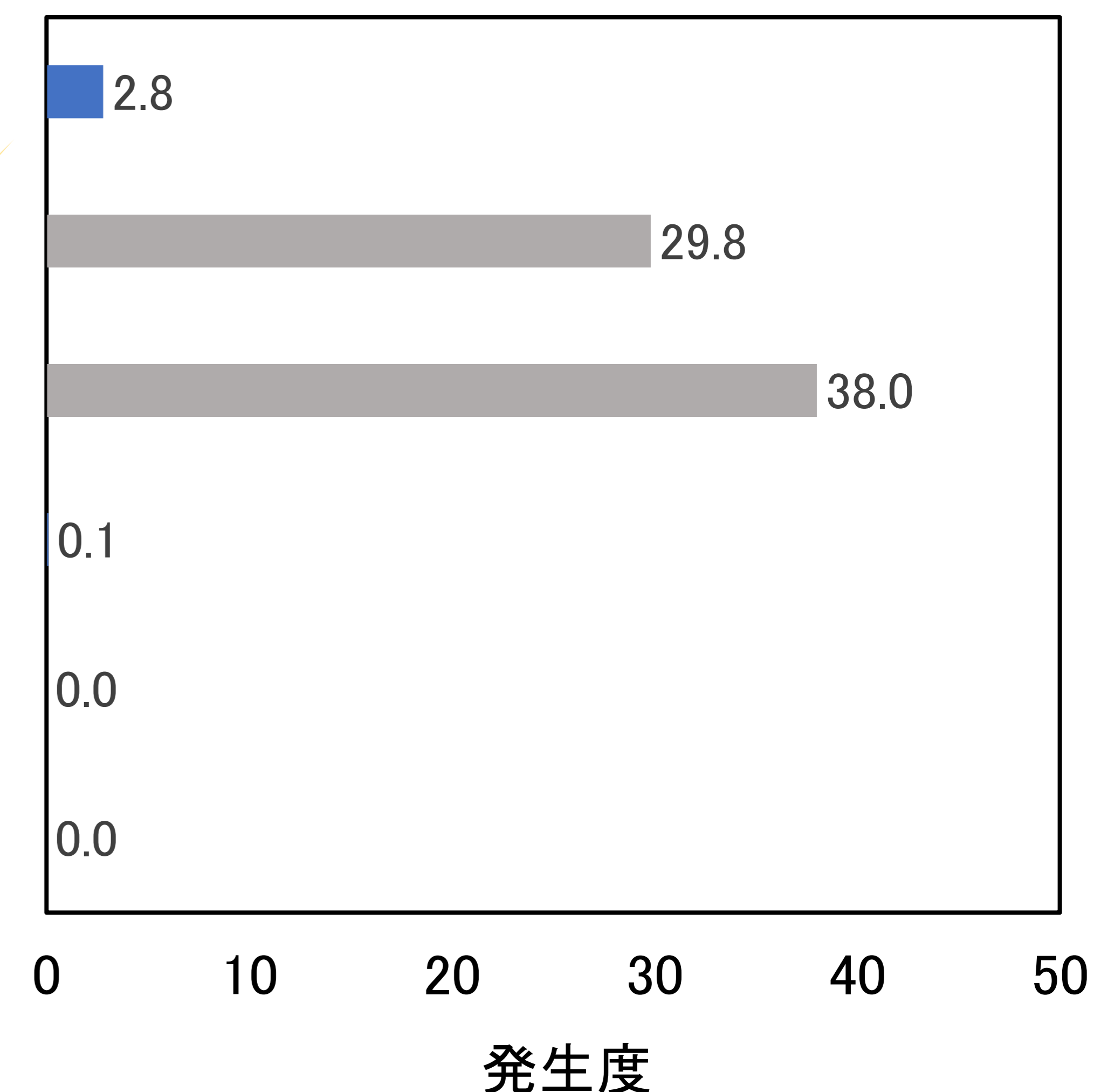
※防除価 = 100 - {(処理区発病率 / 無処理区発病率) × 100}



ベンレート水+ベルコートFで**最も防除効果が高く**、次いでベルコートFで効果あり（ベフラン液とほぼ同等）

■ 薬斑の発生度

ベンレート水和剤+ベルコートフロアブル
ベンレート水和剤+ベフラン液剤25
ベンレート水和剤
ベルコートフロアブル
ベフラン液剤25
無処理



ベンレート水+ベルコートFは**薬斑が少ない**



ベンレート水+ベルコートF



ベンレート水単用

白色の薬斑（汚れ）が発生

ベフラン代替剤として**ベルコートフロアブルが有望**。費用面から同剤の2,000倍の検討が必要。